

# はたらき人

沖縄信徒聖書学校  
沖縄聖書神学校

〒903  
沖縄県那覇市  
首里石嶺4-356  
事務局  
聖書学校  
☎ (098) 937-8988  
神学校  
☎ (098) 884-4152

一九九五年の昨年は沖縄信徒聖書学校開校二十周年の記念すべき年であった。記念式典が祝福のうちにとり行われ、記念誌も近く発刊の予定である。

二十年前、本校が発足した時に掲げられた設立の目的に「一教理的にも実践的にもよく訓練された指導的信徒」この世の反神的な思想や生活習慣、偶像礼拝に妥協せず、迫害や誘惑・窮乏に屈せず、敬虔と祈りをもって福音を証詞する信徒を養成する」とある。一人でも多くの信徒が霊的にととのえられ、知的に研鑽をつみ、そして何よりも宣教の実践を身につけるために訓練を受けてほしいのである。神がいよいよ本校を導いてくださるよう祈る。

戦後五十年の昨年は、種々の事故や事件が次々で起こり、日本がこれまでにない混乱をみた年でもあった。一月の阪神大震災で



## わたしを仰ぎのぞめ

沖繩信徒聖書学校  
校長 斉藤 清次

は多数の人命が奪われ、三月にはオウム真理教による地下鉄サリン事件が発生、宗教法人の名をもつ集団によって日本中が恐怖のどん底におとし入れられた。さらに、沖縄の基地問題が燃え上がり、現在もその解決は見られていない。政治は混乱の中に沈み、経済もその力を失い、日本人が誇りとしてきた高度な技術への信頼もかけりを見せ、子弟の教育についてもなお未解決の問題が残っている。日本はいったいどうなるのであろうか。新たな世紀を迎えようとするこのとき、日本人はどこへ向かって進むのであろうか。

「地の果てなるもうろもの人よ、わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。わたしは神であって、ほかに神はないからだ。」

イザヤ書45の22  
わたしは天のクリスチャンは唯一の真の神がこの世におくられた救



主イエス・キリストの十字架を仰いで救われたのである。それは、自分自身が信仰者として固く立ち、さらに、聖書のみことばと聖霊の助けにより、救いの福音を人々に宣べ伝えるためである。

「あなたがたは、選ばれた種族祭司の国、聖なる国民、神に属する民である。それによって暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたが語り伝えるためである。」

ペテロの第一の手紙2の9

混乱のこの時代の中で、私たちは確固とした信仰に生きると同時に、真の救主であるイエス・キリストを世に証しする使命が与えられていることを知り、謙虚に学び福音を宣べ伝えて主の愛に応えるものとされたいのである。

主が沖縄信徒聖書学校を祝して下さるよう、そして二十一世紀に向かうわが同胞に対して、福音宣教の責任を果たすことができよう祈るものである。



21期卒業生

### 第二一回卒業式挙行

去る三月二十四日(日)午後三時より信徒聖書学校の卒業式が沖縄祈禱院において挙行された。十一名の卒業生が今後牧師を助け、伝道と教会形成のために活躍されることが大いに期待される。

〈第二期生〉  
渡真利千佳子 (敬徳中興バプテスト教会)  
金城正秀 (礼邦バプテスト教会)  
當路由祈子 (聖書長老聖心教会)  
渡真利優子 ( )  
仲宗根直子 ( )  
中松さゆり (首里バプテスト教会)  
永吉正代 (礼邦バプテスト教会)

### 第三回信徒聖書学校入学式

四月五日(金)午後七時三〇分より一九九六年度の入学式が沖縄祈禱院で行われる。

〈信徒聖書学校〉  
池宮城和子 (渡口キリストの教会)  
伊志嶺 渉 (ホサナキリスト教会)  
糸数昭子 (那覇バプテスト教会)  
伊野波昌江 (ホサナキリスト教会)  
大城清子 (今帰仁ナザレン教会)  
亀谷由起子 (沖縄バプテスト教会)  
国吉しのぶ (那覇バプテスト教会)



信徒伝道者養成コース3期生と教授

国吉まりあ (那覇バプテスト教会)  
島袋里美 ( )  
下地明子 ( )  
末吉洋子 (宜野湾バプテスト教会)  
平敷タカ (城間ナザレン教会)  
松田理米香 (宜野湾ナザレン教会)  
宮城昌子 (城間ナザレン教会)  
宮城ヨツ子 (渡口キリストの教会)  
宮城智恵美 (那覇バプテスト教会)  
安村文代 (那覇ナザレン教会)  
山入端ちか子 (那覇バプテスト教会)  
〈信徒伝道者養成コース〉  
金城正秀 (礼邦バプテスト教会)  
玉栄洋子 (胡屋バプテスト教会)  
長浜喜代美 ( )  
松尾和子 ( )  
与儀和美 ( )

### 聖書神学校ニュース

#### 新理事会発足

去年の五月十五日に開かれた第二十二回総会(金城信一郎議長)で今年四月から一九九八年三月までの理事が選出され、この程左記のような役割分担が定められた。

● 新理事と職務担当  
理事長 国吉 守 牧師  
副理事長 宮村武夫 牧師

○ 信徒聖書学校担当理事  
校長 斉藤清次 牧師  
事務局 新垣栄市 牧師  
財務 当路由正 牧師  
" 松田善弘 牧師  
" 折田政博 牧師

○ 聖書神学校担当理事  
校長 渡真利文三 牧師  
事務局 安里嗣昌 牧師  
財務 古堅宗伸 牧師  
" 喜友名朝英 牧師  
" 宮村武夫 牧師  
" 折田政博 牧師

○ 土地建物取得委員  
折田政博 牧師  
斉藤清次 牧師  
喜友名朝英 牧師

※協力献金・特別献金は左記へ  
沖繩信徒聖書学校 当路由正  
琉球銀行那覇支店  
三〇七三三六八八七  
沖繩聖書神学校 古堅宗伸  
那覇市首里山川一ノ一七

# 福音の奥義を

## 大胆に語れるように

—エペソ書六章19-20節—



沖繩信徒聖書学校・神学校  
教授 運 天 康 正

また、わたしが口を開くとき語るべき言葉を賜わり、大胆に福音の奥義を明らかに示しうるように、わたしのためにも祈ってほしい。

わたしはこの福音のための使節であり、そして鎖につながれているのであるが、つながれていても、語るべき時は大胆に語れるように祈ってほしい(エペソ書六19-20)。

これは実に大胆な言葉です。心の内に揺らぐことのない確信にみたまされた人のみが言える大胆な発言です。これを語った使徒パウロは、三回にわたる大伝道旅行を終えた後、逮捕されて今、ローマの獄中に囚人としてつながれている身です。しかし彼は、手足が鎖につながれていても、キリストの全権大使としての気高くも麗しい誇りを持っており、主より受けた福

音宣教の使命を全うするために主に在る大胆な心を堅持しているのです。

一九節には「大胆に福音の奥義を明らかに示しうるように」とあり、二〇節には「つながれていても、語るべき時は大胆に語れるように」とあります。この「大胆に」という言葉は、「パルレーシア」(Parresia)というギリシャ語の訳語で、「率直、公、公然、公開、確信、信頼、勇氣」をも意味する言葉です。「パルレーシア」は、わたしたちの主イエス・キリストの偉大なご恩寵を受けた結果を語る言葉であり、「大胆さ」自体が恩寵そのものなのです。

今回は、恩寵としての「大胆さ」即ち、「パルレーシア」について共に考えてみたいと思っております。「パルレーシア」という言葉は、新約聖書には三十一回使用されており、

そのうち「大胆に」という形容詞のかたちで二十一回用いられておりますが、その中でヨハネによる福音書では九回、ヨハネ書簡に四回、計十三回で、またヘブル書には四回、パウロの手紙と使徒行伝の中の、特に彼の説教の中に十二回使われております。

ところで、「大胆にする」という動詞形の「パルレーシアズマイ」(Parresiazomai)「公然と語る」、大胆に語る、勇氣を得る」という言葉は九回(使九27・28、二三46、一四3、一八26、一九8、二六26、エペソ六20、第一テサ二2)使用されていて、それらの全部がパウロの語ったものであります。

ですから、この言葉はパウロの信仰体験というか、彼の生きざまを語る愛用語の一つであると、言ってもよろしいかと思えます。

もう少し使用法に関して具体的に申しますと、この「パルレーシア」という言葉は、①「臆することのないこと」という意味で八回(使四13・29・31、二八31、第二コリント三12、エペソ三12、ピリピ二、第一ヨハネ二28)。②「あらわ(明白、顯)に」の意味で六回(マルコ八32、ヨハネ一〇24、一一14・54、一六25・29)。③「はばからず」の意味では五回

(使二9、エペソ六19、ピレモン書八、ヘブル四16、一〇19)。④「公然(おおよげ)に」の意味では四回(ヨハネ七13・26、一八20、コロ二15)。⑤「確信」という意味で三回(ヘブル三6、一〇35、第一ヨハネ五14)。⑥その他五回(ヨハネ七4、第二コリント七4、第一テモテ三13、第一ヨハネ三21、四17)使用されており、

それ以外は、すべて「大胆に」という意味(十六回)に訳されています(使二9、四29・31、二八31、第二コリント三12、七4、エペソ三12、六19、ピリピ二20、ヘブル三6、四16、一〇35、第一ヨハネ二28、三21、四17、五14等々)。

このような新約聖書の背景、それに古典的な用法を調べてみると、「パルレーシア」という言葉は、

第一に、「言論の自由」を意味しているようです。自由で、はばかることなく、何の抑圧も受けることなく語れる自由であります。

第二に、「胆力」を意味しています。何事も恐れることなく、肝っ魂がすわり、確信にみち、喜び勇む姿です。

第三に、これは「一般民衆の前での厳然たる態度」、「敢然として前進する姿勢」を意味するものです。

このような語源的考察から「パルレーシア」がどのようなことを指しているのか、おおよその見当がつくかと思えます。それは信仰における魂の「大胆さ」であり、そこから生ずる真の「自由」を意味しているのであります。

わたしたちは教会史の中に多くの「パルレーシア」の例を見ることができま。例えば、一五二一年四月、ヴェルムス国会に喚問された教会改革者マルティン・ルターの姿を思い浮かべれば十分でしょう。

わたしたちは、エペソ書六章一九節-二〇節で「パルレーシア」の恩寵を溢れるばかりに受けて決然として立つ使徒パウロの姿を見ることができま。彼は今、手足を鎖につながれ、監禁の身でローマの獄吏たちの監視の下におります。しかしパウロは、どのような状況下でも主にあつて泰然としており、キリストの全権大使として実に「大胆」でありました。

考えてみれば、当時のローマの権力者やギリシャの哲学者、それにユダヤの律法主義者たちの間を縫って、休むことなく福音の宣教に奔走したパウロのそうした原動力は、まさしくこの「パルレーシア」の恩寵そのものだったのです。

ここで、この「パルレーシア」の根源と性格と目的について少し考えてみたいと思えます。

第一、根源について  
使徒パウロは、ダマスコ途上でのキリストとの出会い以前においても大胆な人でした。否、ほとんど狂気に近いほど大胆な人でした。

教会を迫害し、キリスト者を捕縛するためにダマスコまで遠征したのです。しかし、その時の彼の「大胆さ」は、律法の知識に端を発し、ユダヤ教の伝統的因習に立ち、自分の哲学的確信にもとづくと同時に、大祭司の権威に根拠を持つものでした。

しかし、ダマスコ以後のパウロの「大胆さ」は、これまでは全く次元の違う異質の「パルレーシア」でした。それは十字架に死に、三日目に復活されたキリストとの結合による「新生」を根拠とするのです。

彼はガラテヤ書二章二〇節で、「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストがわたしのうちに生きておられるのである」と告白しています。彼は「キリストのうちに」新しく生まれ、また新しい生命のための勇氣を得たのです。

### 第二、性格について

それは肉体的、外的なものではなく、霊的、肉内的な「大胆さ」であります。六章一二節に「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威とやみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである」とあります。

当時ローマの円型劇場では、頑健な闘士たちが命をかけて闘い、これらの勇士たちの「大胆さ」は市民の人氣を独占していたのです。

これに対し、パウロのいう「パルレーシア」は、見えない対象との戦いのための信仰的、告白的な「大胆さ」でした。それは「はい」という時には「はい」、「否」という時には「否」と明確に言い切る勇氣であります。いかなる抑圧にも屈することなく、語るべきことを堂々と語る言論の自由をいうのであり(マタイ二七28-29)、正直に自己を告白することのできる勇氣でもあります。

### 第三、目的について

それは福音の真理を「大胆に」正しく伝えるためです。彼は今、ローマの獄中で、未決囚として裁判を待っているのです。そしてそのことが「福音の前進に役立つ」(ピリピ一二)ことを確信し、自分の裁判の結果がどのようなになる

うとも「生きるにも、死ぬにもわたしの身によってキリストがあらめられること」(ピリピ二0)だけをはたすことに願っていたのです。彼は異邦人伝道の使徒として主から召しを受けて以来、「もし福音を宣べ伝えなければ、わたしはわざわいである」(第一コリント九16)とまで極言しています。

彼パウロは「パルレーシア」の恩寵を主からいただいたが、即ち、信仰的な「大胆さ」を与えられ、その霊的「大胆さ」でただ福音のみを伝えようと願っていたのです。最後に、預言者エレミヤの言葉を朗唱し、終わりにしましょう。

もしわたしが、「主のことは重ねて言わない、このうえその名によって語ることはしない」と言えば、主の言葉がわたしの心にあつて、燃える火のわが骨のうちに閉じこめられているようで、それを押さえるのに疲れはてて、耐えることができません(二〇九)。

卒業生の主に在る兄弟姉妹は、出て行って「大胆に」語って下さい。また新人生の皆様は、「大胆に」語れるよう学びを充実して下さい。

栄光在主。